〈校訓〉自律・積極・究理

波高通信

Team HASAMI HIGH SCHOOL

〈スローガン〉人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第１０号　平成２７年１月３０日発行

校長室より

「伝統をつなぐ」

昨年１２月、初めて「皿山人形浄瑠璃」を観ました。人形浄瑠璃は、義太夫節の浄瑠璃を三味線で語るのに合わせて人形を操る演劇で、日本の近世芸能の一つです。「寿式三番叟」（ことぶきしきさんばそう）という演目では、華やかな装束をまとった人形の躍動を、「伊達娘恋緋鹿子（だてむすめこいのひがのこ）お七火の見櫓の段」という演目では、お七が厳罰を覚悟で火の見櫓を上っていく姿に、恋人への熱い思いを感じました。人形自体とても綺麗でしたが、その指先まで神経の届いた仕草もまたすばらしかったです。迫力もあり、観ているうちに、人形が本当に生きて動いているように思えました。その息遣いや涙まで感じられ、人形とは思えないほどでした。

皿山地区は波佐見町を代表する焼ものの里の一つです。皿山人形浄瑠璃保存会「美玉会」のリーフレットによると、皿山人形浄瑠璃は、「享保の大飢饉」（１７３２年）がきっかけとされています。飢饉のためやきものが売れなくなり、この地区の人たちが、人々の命を救いたいとの思いから、人形浄瑠璃興行を思い立ち、大村藩の各地を巡業して食料を得たとのことです。以来、今日まで、脈々と受け継がれて、現在では本県の無形民族文化財に指定され、地元はもとより各地で公演をしているということです。約３００年の長きに渡り、その伝統をつなぐ努力は並々ならぬものがあったことと思います。

さて、平成２７年、我が波佐見高校は、分校時代から数えると創立６７年目を迎えます。波佐見焼や皿山人形浄瑠璃の伝統には遥かに及びませんが、その間、各年度の卒業生が、在学時代一つ一つ伝統を積み重ね、それをつないできました。生徒会誌**「鴻陵」**に掲載された当時の生徒会長や役員の言葉を引用します。

○「もう少しすると新校舎が落成し、新学期にはそこで生活することになると思います。**『あの学校は外見はいいけれども中身はちょっと』と言われないためにも私たち一人一人が自覚をもって高校生活を送らなければならない」**（鴻陵第２号　昭和５４年３月１日発行）

○**「独立して５年がたち、そろそろ波佐見高校の地盤を固めていかなければならない時期だと思います」**（鴻陵第５号　昭和５７年３月１日発行）

○**「今の波佐見高校に必要なことは、あいさつと掃除の徹底である」**（鴻陵第１５号　平成４年３月１日発行）

○「美化委員の仕事を通じて感じた事は、とにかくごみが多い事です。廊下の隅や階段、いろんな所に、ガムの吐き捨て、アメの包み紙などたくさん捨ててありました。**一人ひとりのちょっとした心がけでごみを減らす事ができます。でも、それがなかなかできません**」（鴻陵第２６号　平成１５年３月１日発行）

それでは、現在の波佐見高校はいかがでしょうか。あいさつは褒められる機会が多くなりました。校内のごみの散乱はほとんどありません。掃除は、指示されないと動けない人もいますが徐々によくなってきています。これらは、先輩たちの学校を良くしなければという思いや行動が、60年以上にわたってしっかりと受け継がれてきたからなのです。

全校生徒による**陶芸教育**も、本校が誇る伝統の一つです。**「人は焼きものをつくり、焼きものは人をつくる」**を柱に据えた陶芸教育は、平成２年度に本格的にスタートし、平成２６年度で２５年目となります。内容や方法には、様々な変遷がありましたが、波佐見焼の歴史や伝統技法、そして最先端の焼きもの技術を学び、「陶心」を育むという理念は、脈々と受け継がれています。

生徒会誌「鴻陵」や陶芸教育の他にも、本校の伝統の証を、校門横の野球部の甲子園出場記念碑、ロータリーの校訓碑、自転車置き場横の穴窯、陶芸の庭、各部の旗などにうかがうことができます。このように、皆さんの先輩たちが、一つ一つ伝統を積み重ね、つないでくれたおかげで今の波佐見高校や今の皆さんがあるわけです。

しかし、伝統を積み重ねたりつないだりする何か簡単な方法が本校に用意されているわけではありません。皆さんが在学中に一生懸命にがんばった日々の成果が、伝統として残っていくわけです。そして、その残された伝統が、次の学年へ、また次の学年へとつながっていくのです。伝統をつないでいくのは簡単ではありません。

皿山人形浄瑠璃

今、本校に在籍している皆さんや私を含めた教職員が、目の前のことに一生懸命に取り組み、一つ一つの行事を心を込めて創り、つなぐ努力をしなければならいのです。皆さんを待っている日々を美しく豊かにそして大切に過ごしながら、平成２７年の真っ白いカレンダーに、努力した証を確実に残していきましょう。波佐見焼や皿山人形浄瑠璃に負けない伝統作りとその継承のためにも。

「手のつかぬ月日豊かや初暦」（吉屋信子）　　（野田 定延）

校外美術研修

美大受験って何？

１月１０日（土）に美術・工芸科の１年生２０名が、**北九州市漫画ミュージアム**と**大橋美術研究所**の見学会に行ってきました。

北九州市漫画ミュージアムでは人気漫画「宇宙兄弟」の企画展が開催されており、原画や水彩絵具で着色されたカラー原稿、設定資料、本物の宇宙服、ロケットの模型などを鑑賞することができました。

また、北九州出身の漫画家である松本零士氏を紹介するブースや、漫画の表現技法を紹介するコーナーの他、約５万冊の漫画を揃えた閲覧ゾーンもあり、生徒たちは時間ぎりぎりまで見学を楽しみました。

後半は福岡市にある**大橋美術研究所**（美術予備校）を見学しました。生徒たちは研究所の受講生による習作や美大受験の再現作品を見せてもらい、念密な描写や高い構成力に大いに刺激を受けていました。また、受講生が静物デッサンや石膏デッサンを制作する様子や、熟練講師による講評の様子などの見学を通して、美大受験の実際を感じることができた様子でした。　　（美術科　石田　綾）

北九州市漫画ミュージアム

大橋美術研究所会

県高総文祭美術部門

九州大会に選抜出品！

平成２６年度**長崎県高等学校総合文化祭【美術部門】**が１２月１７日（水）～２１日（日）にかけて長崎県美術館で開催されました。絵画部門、デザイン部門、彫刻部門、工芸部門、現代アート部門の５つの部門に県内５４の高校、特別支援学校から約５００点の作品が出品されました。

本校は美術部員と工芸部員の作品を絵画部門に６点、デザイン部門に１３点、工芸部門に６点、計２５点を出品。審査の結果、**優秀賞が４点、優良賞が５点、入選が１６点**という成績でした。

また、優秀賞を受賞した作品の中で、**陶芸部１年の太田龍雅君の作品『冬』**が来年度の**九州大会に推薦**されました。

また、１２月２１日（日）、美術部と陶芸部の生徒は、展覧会に出品した県内の高校生が一同に会する合評会にも参加しました。参加した生徒たちは、気になった他校生徒の作品をじっくりと鑑賞していました。また、他校の美術部顧問から各自の作品について講評をしてもらい、大いに刺激になった様子でした。　　（美術科　石田　綾）

九州大会に選抜出品される１年５組太田龍雅君の作品『冬』

東アジア高校生友好キャリアアップ事業　充実の中国・上海市研修

去る１２月１４日（日）から１９日（金）まで、長崎県教育委員会主催の事業に、**商業科1年生４名（男子３名・女子１名）**が参加しました。**この事業は、世界規模で活躍する企業での研修をとおして、国際的な視点と豊かなコミュニケーション能力を身につけ、将来地域社会で活躍できる人材を育成することを目的としています。**

出発前には事前研修と結団式があり、一緒に参加する生徒５５名と引率者１２名を前に、波佐見町および波佐見高校の紹介と、研修に臨む決意表明を行いました。

コース別研修では、他の２校の生徒とともに**『商業コース』**に参加し、**コクヨ上海**（事務用品販売・リース等）、**宝広上海**（屋外広告・各種イベント取扱・広告代理業）、**隆安法律事務所**（法律サービス業）の３事業所と、**上海市商業学校**（高等技術専門校）を訪問し、見学・研修や学生との交流を行いました。

また、全体研修として、**コチ・コンサルティング（人事業務代行業・人事コンサル会社）社長講話**や**上海市在住長崎県出身者とのディスカッション、上海市内見学（上海博物館・豫園商城・東方明珠塔）**がありました。

帰国後の報告式では商業コースで学んだことやその内容について、他コースの生徒に向けて報告発表しました。

研修内容はどれも充実したもので、発表のための準備も含めて多くの発見や学びがありました。また、海外から見た日本とはどういうものかを実感することもでき、私たち民間レベルにおける異文化交流はとても大切で、活発であるべきだと感じました。参加した上田元気君は、**「この事業に参加して、今後の進路選択や将来の職業選択の幅が大きく広がり、日本の企業だけでなく、海外の企業にまで視野を広げることができました」**と感想を語りました。また、田﨑小春さんは**「日中関係が悪化していると言われていますが、同じ時代を生きる仲間として両国の関係を築いていきたい」**と述べました。（引率者　商業科　大田 公子）

三地区PTA研修会

ナイス トライ！

１月１８日（日）に諫早文化会館で、諫早・大村・東彼杵地区ＰＴＡ研修会がありました。最初の講演では、長崎女子短期大学の浦川末子学長が、自己肯定感・満足感が他国に比べて格段に低い日本の子どもたちを心配し、現在の日本の親子関係に警鐘を鳴らされました。そして、**失敗に対して「ダメだし」をするより、「ナイス、トライ」と言葉をかけて、親子の間に共感関係を作り出すことが大切だ**と話されました。次の体験発表においても、四人の発表者がそれぞれ「感謝」「受容」「成長」「一生懸命」のコンセプトのもと、感動的な発表をされました。最後に、**「親力」とは「よりよい親子関係を築く力」である**という講評をいただいて、３時間を越す研修会が終了しました。出席予定の会員が次々とインフルエンザの猛威に倒れ、出席者が８名と寂しくなりましたが、参加した会員は中身の濃い研修に満足していました。　（教務主任　安達　健）

新春爽やか挨拶運動

挨拶は全ての始まり

1月8日から16日までPTAと合同で挨拶運動を行いました。4月、8月に続いて今年度3回目となりますが、次第に生徒の挨拶が良くなっているように感じられます。地域の方とすれ違うときも挨拶をしているらしく、お褒めの言葉を頂くこともありました。

しかし、**まだ自ら挨拶できない生徒や頭だけ下げて声が出ない生徒が見られます**。挨拶から全ての人間関係が始まります。気持ちよく1日を過ごすためにも「爽やかな挨拶」が重要です。

ご家庭でも挨拶の励行とご指導をよろしくお願いします。　（生徒指導主事　黒江 英樹）

マレーシアより来日学生を受入　ようこそ アデリンさん！

１２月８日と９日の２日間、波佐見ライオンズクラブの青少年交換事業で来日中のアデリン ユーン アンイェさんが本校で訪れて、交流学習を行いました。アデリンさんは２０歳になるマレーシアの女子学生です。アデリンさんは波佐見の寒さにびっくりしていましたが、巧みな日本語、持ち前の明るさと人懐っこさで、すぐに波佐見高校に溶け込み、いろいろな授業での活動を通して波高生と交流を楽しみました。

１年の家庭科の授業では調理実習に参加して、「あんかけ中華そば」づくりにチャレンジしました。できあがったそばを「美味しい　美味しい」と日本語で言いながら、生徒と一緒に食べていました。アデリンさんの、**前向きで積極的な性格と行動力は、異文化を受け入れる姿勢として、見習うべき点がたくさんありました。**　（教頭　木村　広）

就職指導を振り返って　就職率１００％を達成！

今年度の**就職希望者は全員が内定**しました。**県内就職３２名、県外就職２３名、縁故就職５名、就職進学３名、公務員５名**という状況です。進学希望でまだ未定の生徒が数名いますが、就職指導はまずはひと段落です。本校に来て７年目になりますが、**１２月の時点で全員の就職が決まった**のは初めてのことです。これは本人や保護者の方々、担任の協力関係の成果であるのみならず、企業が人材育成に少し目が向く余裕が生まれたことも十分に影響していると思われます。実際に昨年、今年と連続して求人数が増えてきており、就職試験の合格率も上昇していることから、明らかに新卒採用の動きが出てきています。

来年度どうなるかはまだわかりませんが、新卒採用の動きが活発化してくることは間違いないと思います。**現１，２年生においては、自分の興味や適性にについて十分理解を深め、求人情報を数多く集めて、ミスマッチとならない受験を心懸けることが早期内定につながる**と思います。

企業が高校生に求めているものは、①コミュニケーション能力、②基本的生活態度・礼儀作法、③人柄です。いずれも人と人とのつながりを大切にした項目が挙げられています。特に**コミュニケーション能力**は近年連続して１位に挙げられていますが、これは**職場内でのコミュニケーションを重視していることの現れ**です。特に忘れてならないのは**「自分より年上の人」とのコミュニケーション**です。高卒で就職すると、必ずといってよいほど周りは年上の人であり、それらの人から仕事を学ぶことになります。４位に挙げられている**「協調性」**もこれらのことと深い関係があります。**どの項目も短期間で身につけることができません。**
自分自身の日頃の生活について真摯に見直していきましょう。　（進路指導主事　宮崎　恵）

ＨＴＢ長期インターンシップ　忙しい、けれど楽しい

冬休みの期間中に、恒例の**ハウステンボス長期・実践的インターンシップ**を実施しました。２日間の事前研修（礼法指導等）２週間の本研修の後、参加生徒全員の前で研修の成果を発表してもらいました。今回は１４名と少なめの参加でしたが、生徒はレストラン、アミューズメント売店などの配属先に応じて様々な職種を体験しました。ただの接客のみならず、外国人への案内や、ピクチャーサービス（写真を撮ってあげるサービス）、着ぐるみを着たり。中には、アミューズメント内でのMC（場内アナウンス）を任された生徒もいました。初めの頃は大失敗をしたりして厳しく指導されたりもしたそうですが、面倒見の良い担当者や仲間に支えられて実り多い就業体験ができたようです。

４年前に始まったこのインターンシップも今回で１２回目となり、延べ２１２名が参加したことになります。３～４日のインターンシップでは得られない達成感を味わうことができる長期・実践的インターンシップです。国内のテーマパークとしては東京ディズニーランド、USJと並んで３大テーマパークとしても有名になったハウステンボスのスタッフとして業務に携わるというのは、皆さんの今後に生きる素晴らしい経験になるでしょう。

（進路指導主事　宮崎　恵）

第２回鴻の巣塾　できないことなんて、ないんだ

１月１９日（月）に、今年度2回目となる、**教養セミナー「鴻の巣塾」**を同窓会との共催で開催しました。講師は**株式会社「和える」（東京）代表取締役社長の矢島里佳先生**（２６才）で、「できないことなんて、ないんだ！」の演題でお話をいただきました。矢島先生は、日本各地の伝統職人の技術の魅力に引かれ、子どもたちに日本の伝統文化や産業を発信しようと、慶應義塾大学在学中に起業されました。自身の高校時代から現在までの歩みを振り返り、**「自分の進むべき道を正直な気持ちで選べば、夢は必ずかなう。目標を言葉にして周囲に伝えることが大切です」**と生徒に呼びかけていただきました。生徒からの「仕事をする上での励みは何ですか」という質問には、**「三方良し」（自分がしたいことをやって「自分」がうれしい、「相手」も喜ぶ、「社会」にとっても良い）の精神で頑張ることが励みになっています**、と答えていただきました。　（教頭　木村　広）